

南箕輪村の地球温暖化対策に関するアンケート調査結果概要

1. 調査の目的

「南箕輪村地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の策定にあたり、住民・事業者・農家の地球温暖化対策に対する意識や行動等を把握し、計画に反映させることを目的として実施した。

2. 調査対象・調査方法

いずれの対象も、配布は郵送にて行い、回収は郵送またはインターネット（ながの電子申請サービス）への入力により行った。

区 分	配布数	回収数			回収率
		郵送	電子申請	合 計	
住 民	1,200	353	126	479	39.9%
事業者	327	109	33	142	43.4%
農 家	52	15	8	23	44.2%

3. 調査期間

R5/11/24（金）～12/18（月）

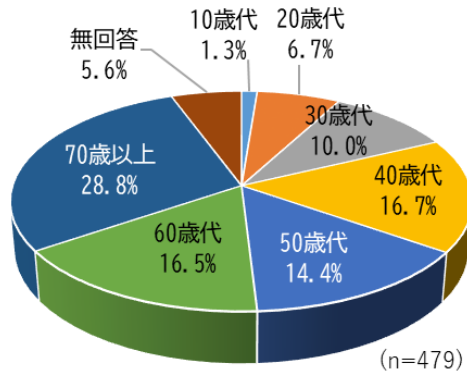
4. 調査結果

（1）住民

【回答者属性】

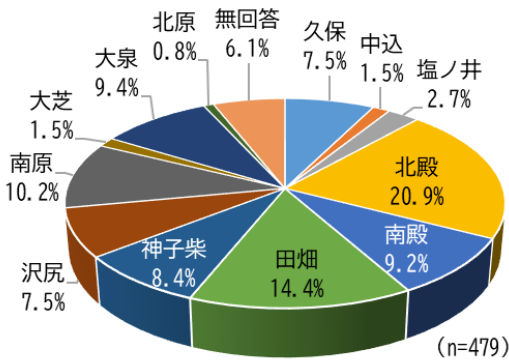
①年代

- 70 歳以上が最も多く、次いで 40 歳代、60 歳代の順に多かった。



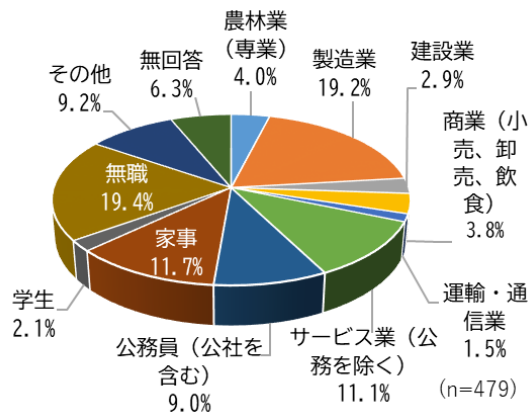
②居住地区

- 北殿が最も多く、次いで田畑、南原の順に多かった。



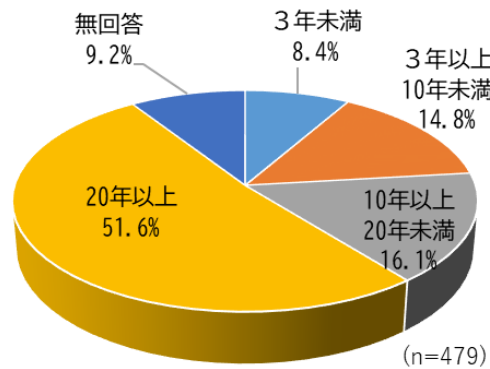
③職業

- 無職が最も多く、次いで製造業、家事の順に多かった。



④居住年数

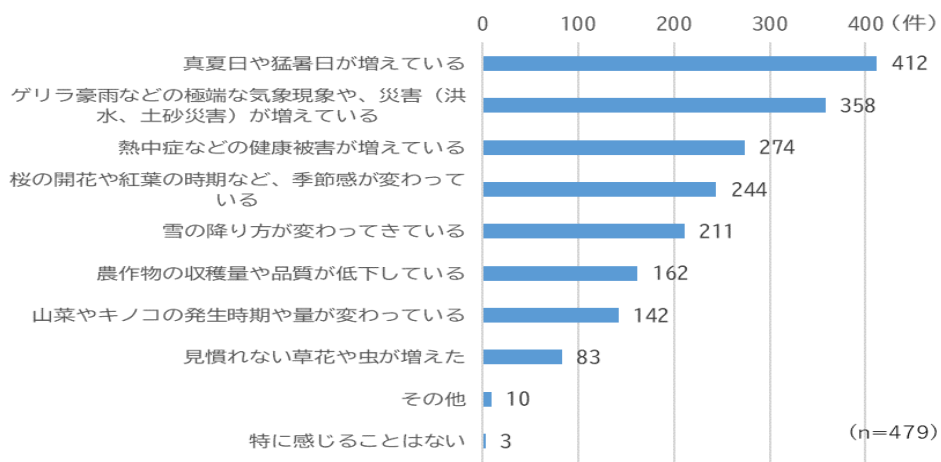
- 20 年以上が半数以上で最も多く、次いで 10 年以上 20 年未満、3 年以上 10 年未満の順に多かった。



【集計結果】

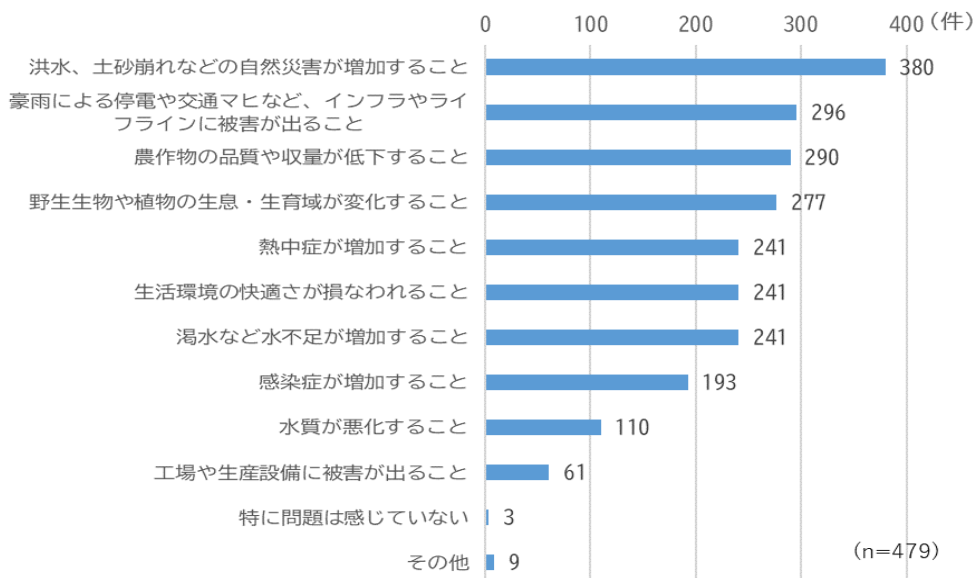
〔問5〕地球温暖化による気候変動の影響を感じるか？

- 「真夏日や猛暑日が増えている」が最も多く、回答者の約 86%が回答した。次いで「ゲリラ豪雨などの極端な気象現象や、災害（洪水、土砂災害）が増えている」（約 75%）、「熱中症などの健康被害が増えている」（約 57%）の順に多かった。



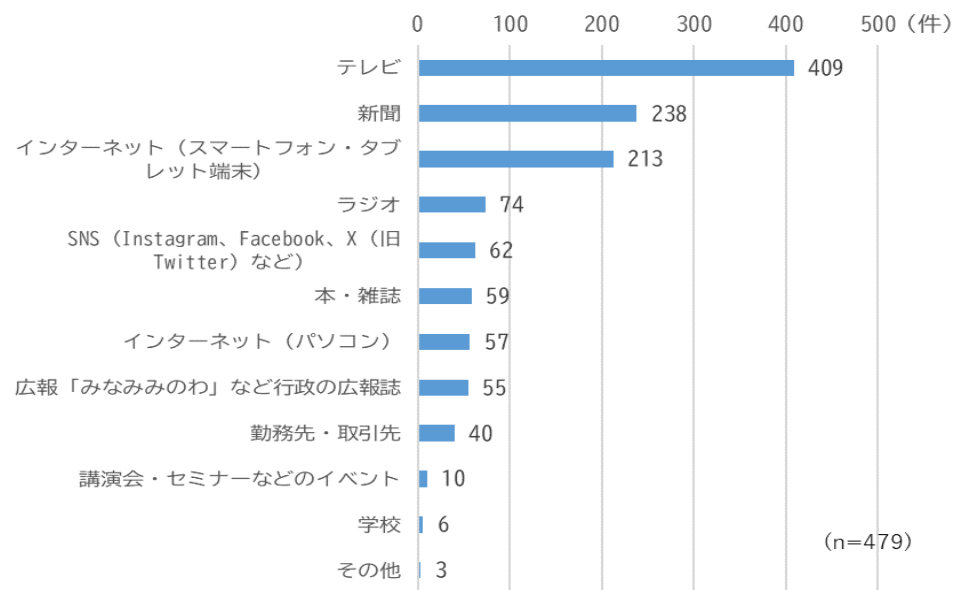
〔問6〕地球温暖化によるどのような影響が脅威と感じるか？

- 「洪水、土砂崩れなどの自然災害が増加すること」が最も多く、回答者の約 79%が回答した。次いで「豪雨による停電や交通マヒなど、インフラやライフラインに被害が出ること」（約 62%）、「農作物の品質や収量が低下すること」（約 61%）の順に多かった。



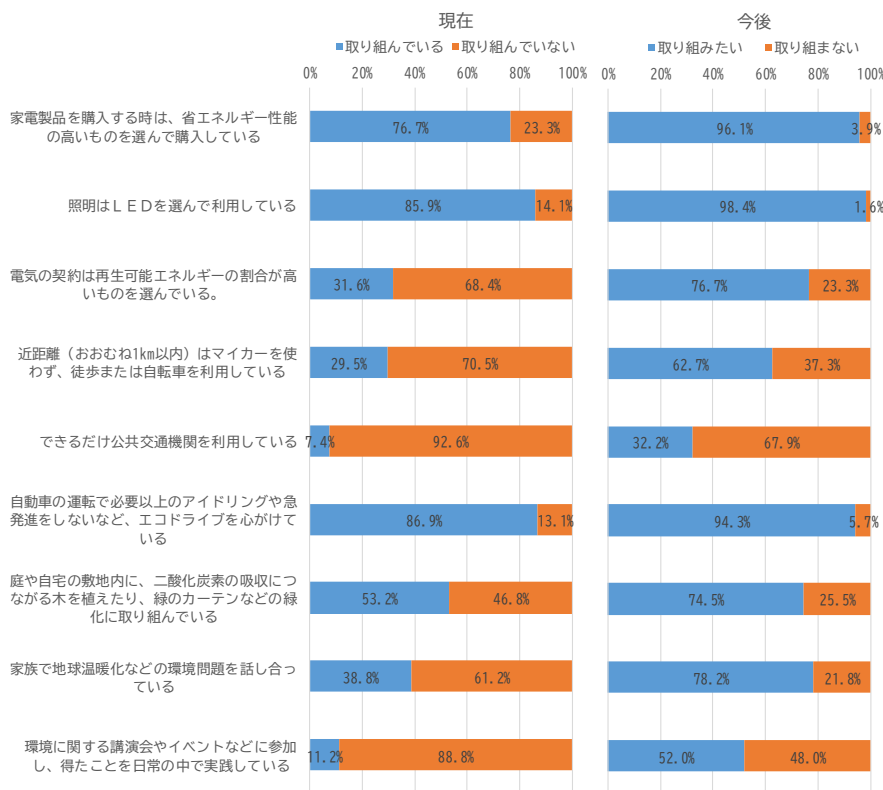
〔問7〕地球温暖化に関する情報はどこから入手しているか？

- 「テレビ」が最も多く、回答者の約 85%が回答した。次いで「新聞」（約 50%）、「インターネット」（約 45%）の順に多かった。



〔問8〕日常的に実践している取り組みは？

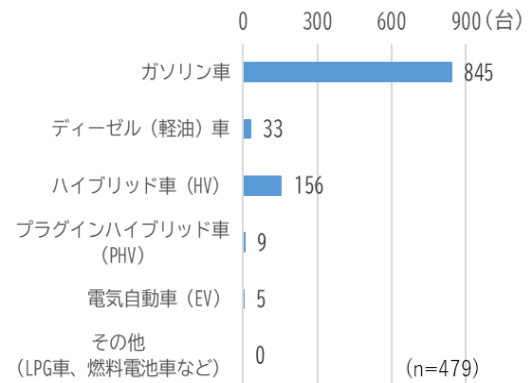
- 現在「取り組んでいる」の割合が最も高かったのは「エコドライブを心がけている」で、回答者の約 87%が回答した。次いで「LED を選んで購入」（約 86%）、「家電製品は省エネルギー性能の高いものを購入」（約 77%）の順であった。
- 今後「取り組みたい」の割合が最も高かったのは「LED を選んで購入」で、回答者の約 98%が回答した。次いで「家電製品は省エネルギー性能の高いものを購入」（約 96%）、「エコドライブ」（約 94%）の順であった。



※割合は四捨五入の関係で合計が 100%にならないことがあります。

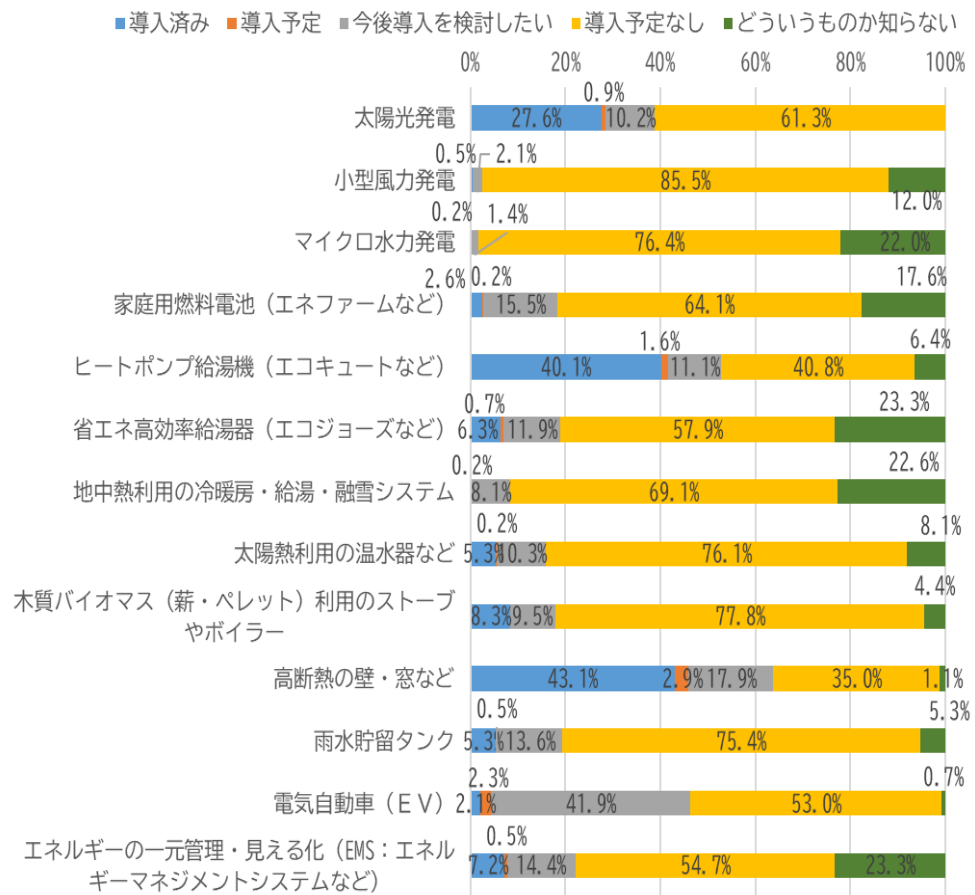
〔問 9〕所有している自動車

- 「ガソリン車」が最も多く、回答者の約 85%が回答した。
- 「ハイブリッド車」は回答者の約 26%が回答し、「電気自動車」は 5 台、約 1%が回答した。



〔問 10〕再生可能エネルギー設備の導入状況

- 「導入済み」が最も多かった回答は「高断熱の壁・窓」で回答者の約 43%が回答した。次いで、「ヒートポンプ給湯機」（約 40%）、「太陽光発電」（約 28%）の順に多かった。

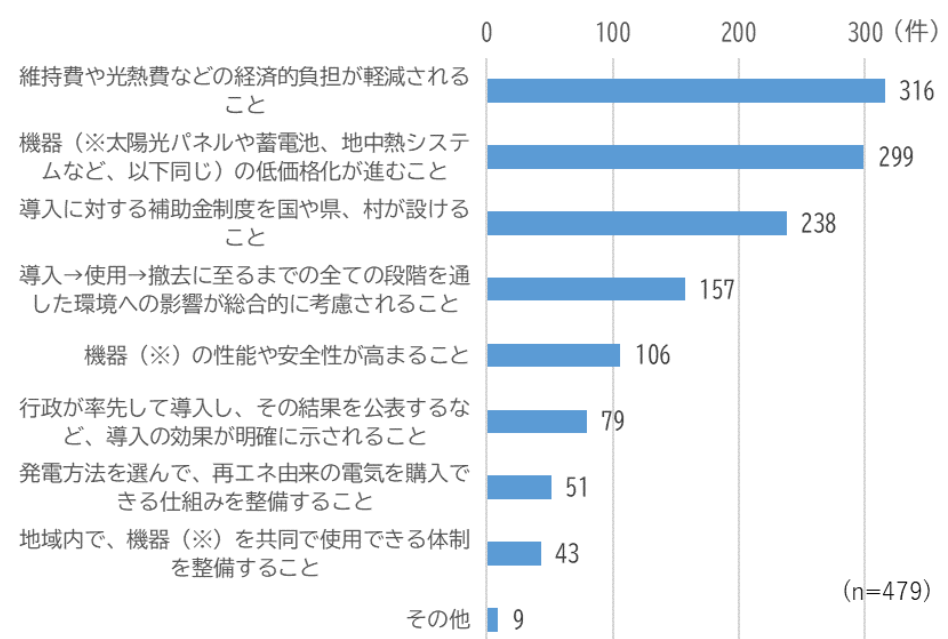


〔問 11〕再生可能エネルギー設備の導入にあたって重要と思うこと

- 最も多かった回答は「維持費や光熱費などの経済的負担が軽減されること」で回答者の約 66%が回答した。次いで、「機器の低価格化が進むこと」（約 62%）、「導入に対する補助金制度を国や県、村が設けること」（約 50%）の順に多く、金銭的な負担軽減に回答が集中した。

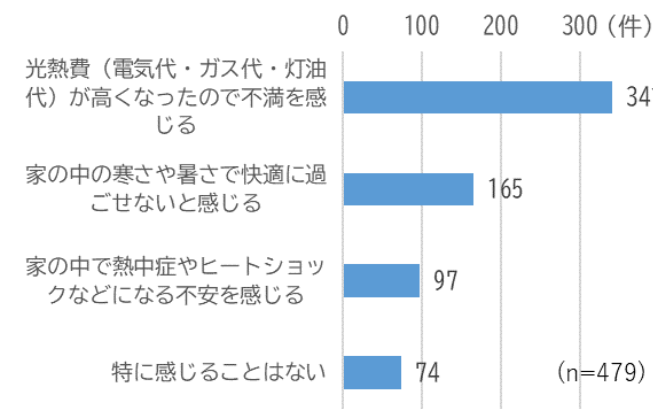
※右上の図参照

（問 11 の集計結果）



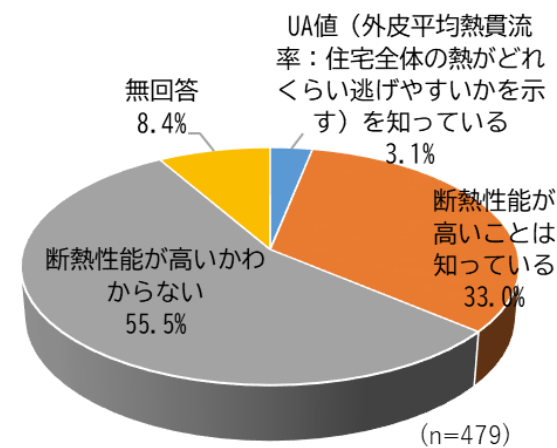
〔問 12〕自宅の断熱性能をどう感じているか

- 最も多かった回答は「光熱費が高くなったので不満を感じる」で回答者の約 71%が回答した。次いで、「家の中の寒さや暑さで快適に過ごせないと感じる」（約 35%）、「家の中で熱中症やヒートショックなどになる不安を感じる」（約 20%）の順に多かった。



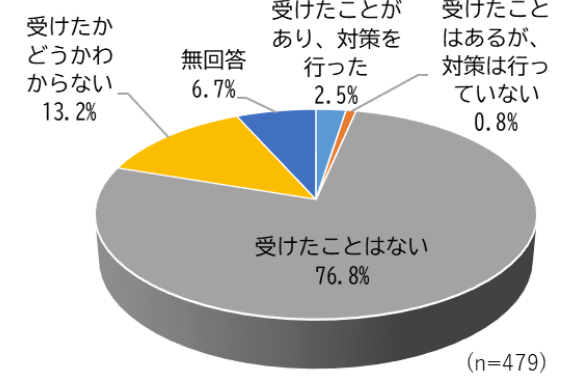
〔問 13〕自宅の断熱性能がどのくらい知っているか

- 最も多かった回答は「断熱性能が高いかわからない」で回答者の半数以上の約 56%が回答した。次いで、「断熱性能が高いことは知っている」（約 33%）、「UA 値を知っている」（約 3%）の順に多かった。



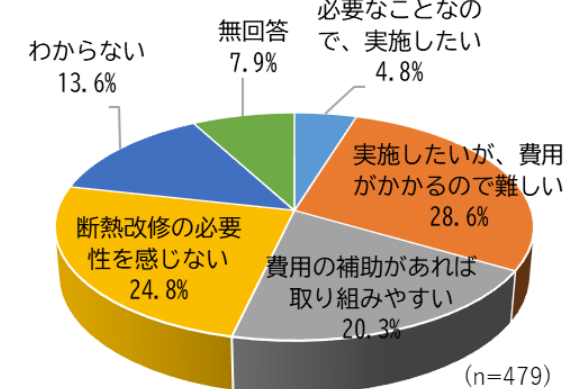
〔問 14〕家庭の省エネ診断を受けたことがあるか

- 最も多かった回答は「受けたことはない」で回答者の約 77%が回答した。「受けたことがある」は回答者の約 3%であった。



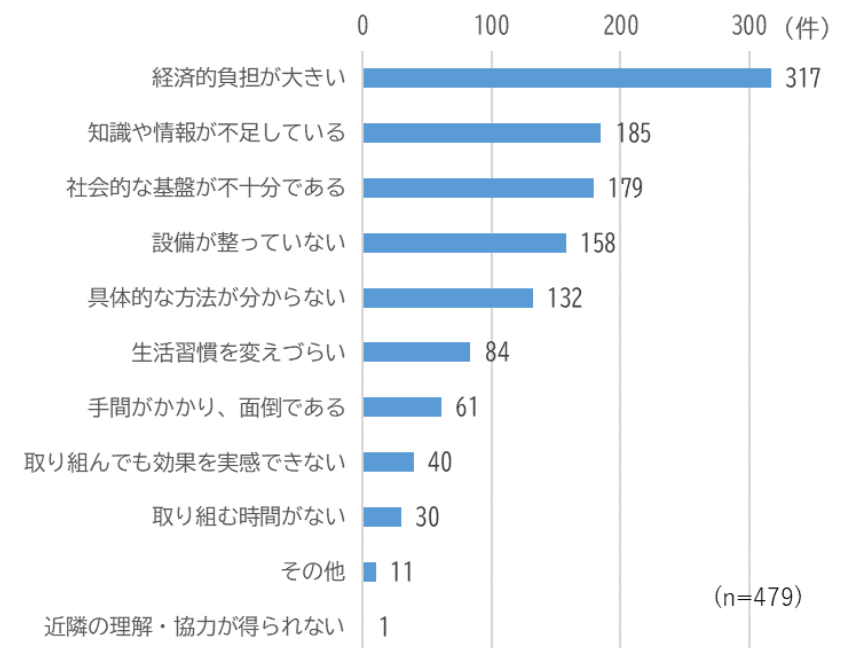
〔問 15〕自宅の断熱改修についてどう考えているか

- 最も多かった回答は「実施したいが、費用がかかるので難しい」で回答者の約 29%が回答した。次いで、「断熱改修の必要性を感じない」（約 25%）、「費用の補助があれば取り組みやすい」（約 20%）の順に多かった。



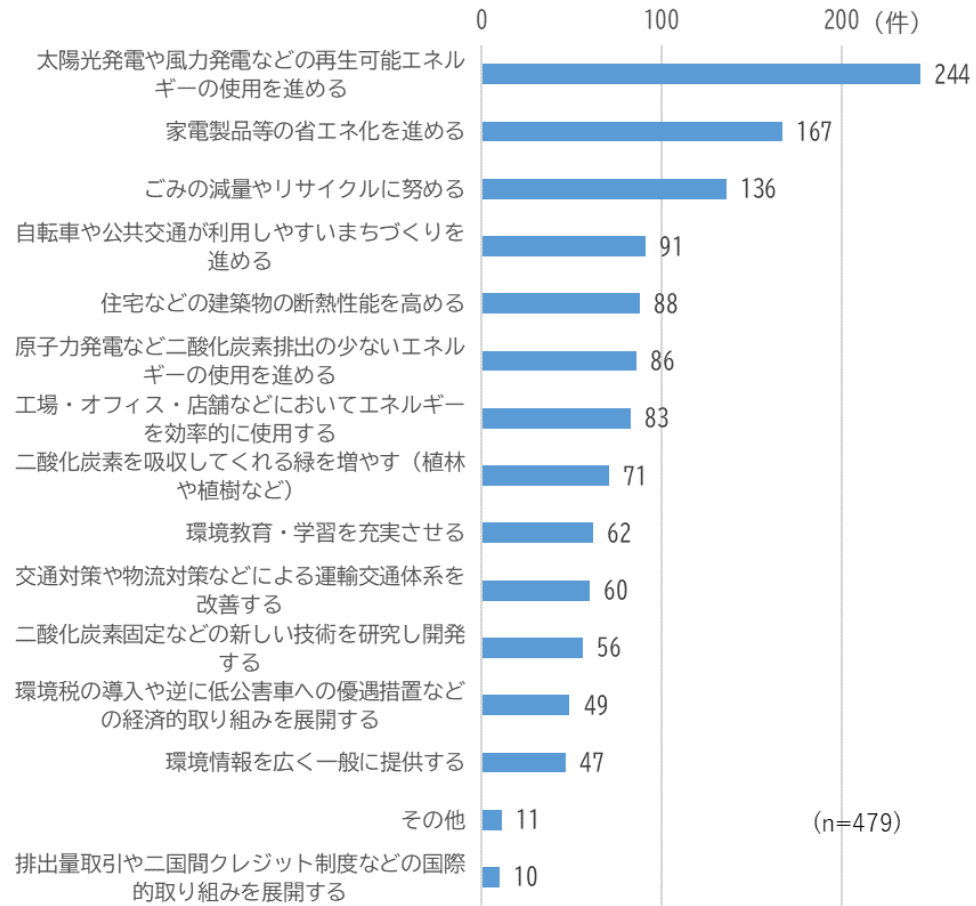
〔問 16〕地球温暖化対策の取り組みを進める上での課題は何か

- 最も多かった回答は「経済的負担が大きい」で回答者の約 66%が回答した。次いで、「知識や情報が不足している」（約 39%）、「社会的な基盤が不十分である」（約 37%）の順に多かった。



〔問 17〕地球温暖化対策としてどのような取り組みが必要か

- 最も多かった回答は「太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの使用を進める」で回答者の約 51%が回答した。次いで、「家電製品等の省エネ化を進める」（約 35%）、「ごみの減量やリサイクルに努める」（約 28%）の順に多かった。

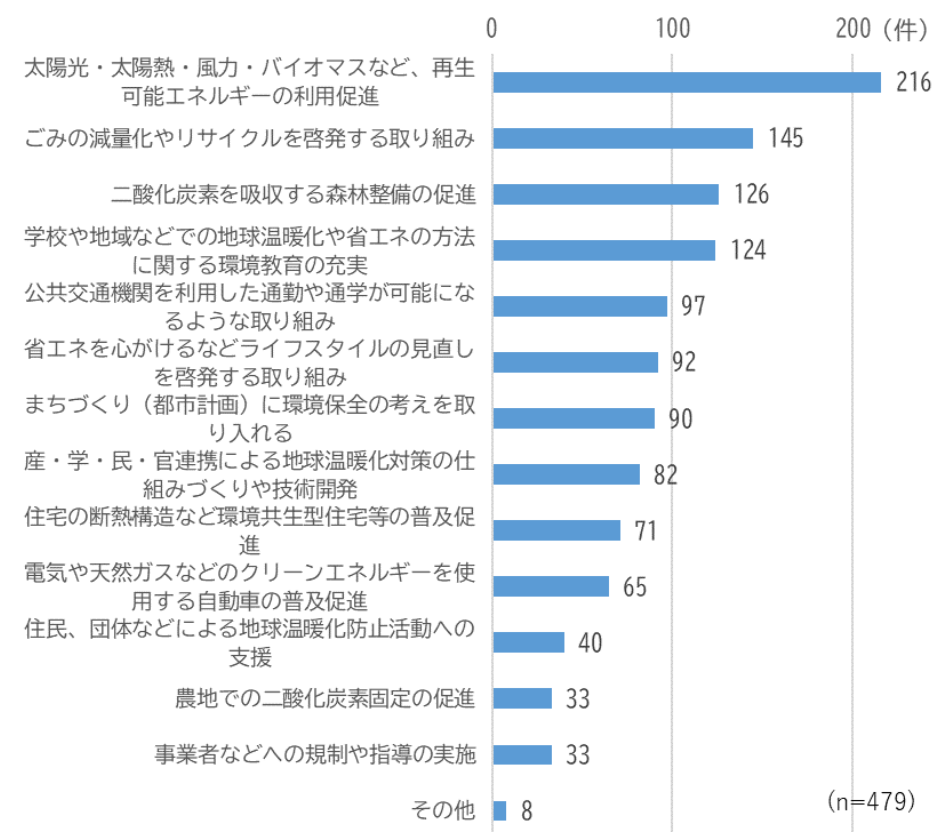


〔問 18〕南箕輪村が重点的に取り組むべきことは

- 最も多かった回答は「太陽光・太陽熱・風力・バイオマスなど、再生可能エネルギーの利用促進」で回答者の約 45%が回答した。次いで、「ごみの減量化やリサイクルを啓発する取り組み」（約 30%）、「二酸化炭素を吸収する森林整備の促進」（約 26%）の順に多かった。

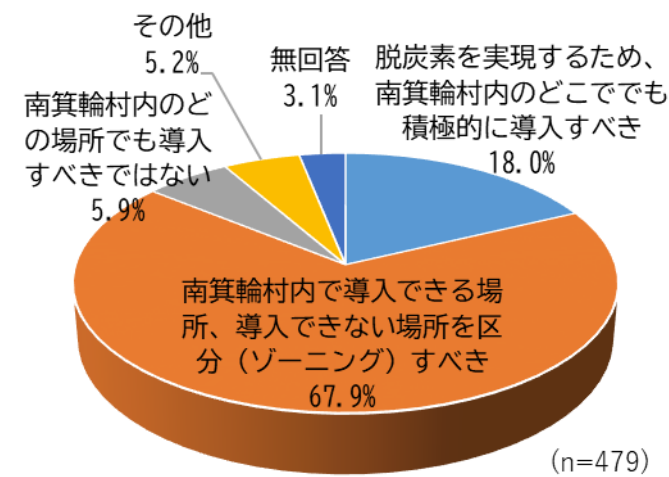
※右上の図参照

（問 18 の集計結果）



〔問 19〕南箕輪村での大型の再エネ設備導入についてどう考えているか

- 最も多かった回答は「南箕輪村内で導入できる場所、導入できない場所を区分すべき」で回答者の約 68%が回答した。
- 「脱炭素を実現するため、南箕輪村内のどこでも積極的に導入すべき」は約 18%、「南箕輪村内のどの場所でも導入すべきではない」は約 6%であった。



〔問 20〕自由意見

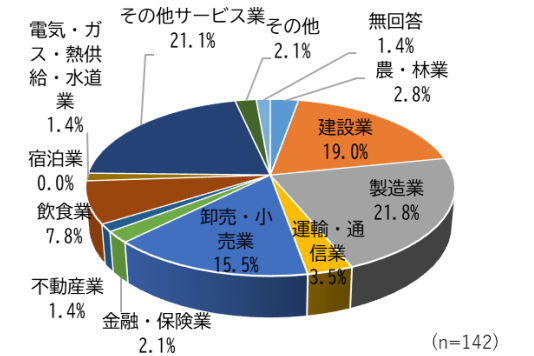
- 107 件の回答が寄せられた（別紙参照）。

（2）事業者

【回答者属性】

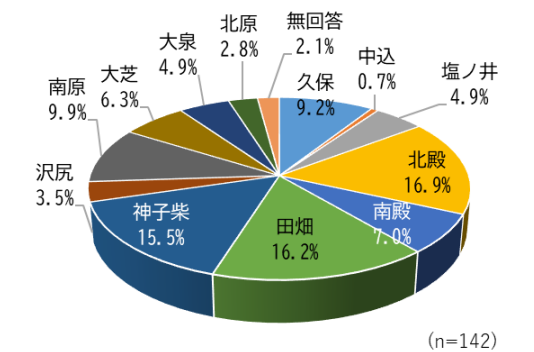
① 業種

- 製造業が最も多く、次いでその他サービス業、建設業の順に多かった。



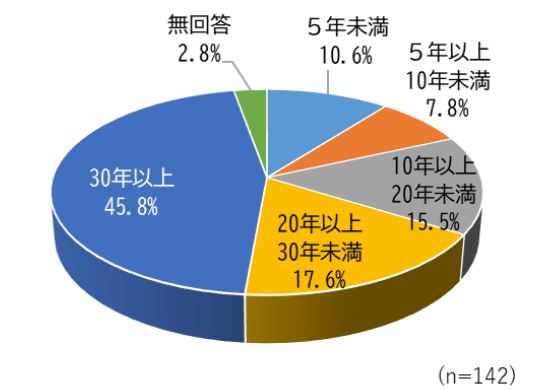
② 所在地区

- 北殿が最も多く、次いで田畑、神子柴の順に多かった。



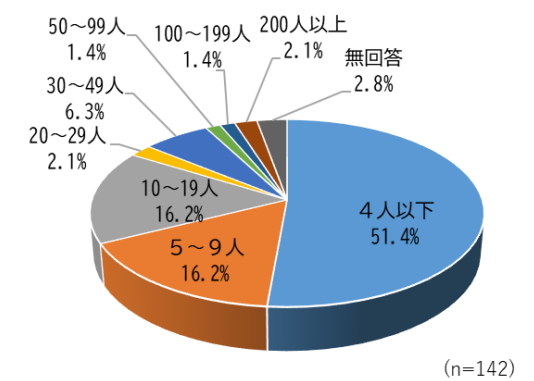
③ 南箕輪村での事業年数

- 30 年以上が最も多く、次いで20 年以上 30 年未満、10 年以上 20 年未満の順に多かった。



④ 従業員数

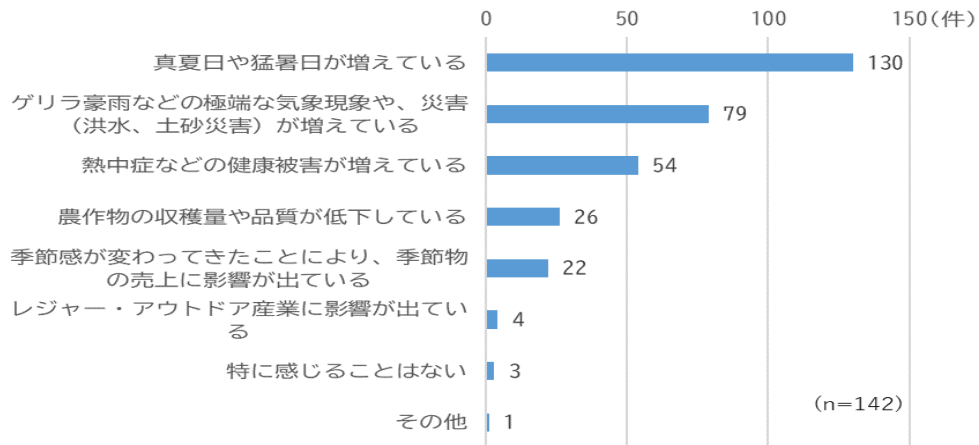
- 4 人以下が最も多く、次いで5～9 人、10～19 人の順に多かった。



【集計結果】

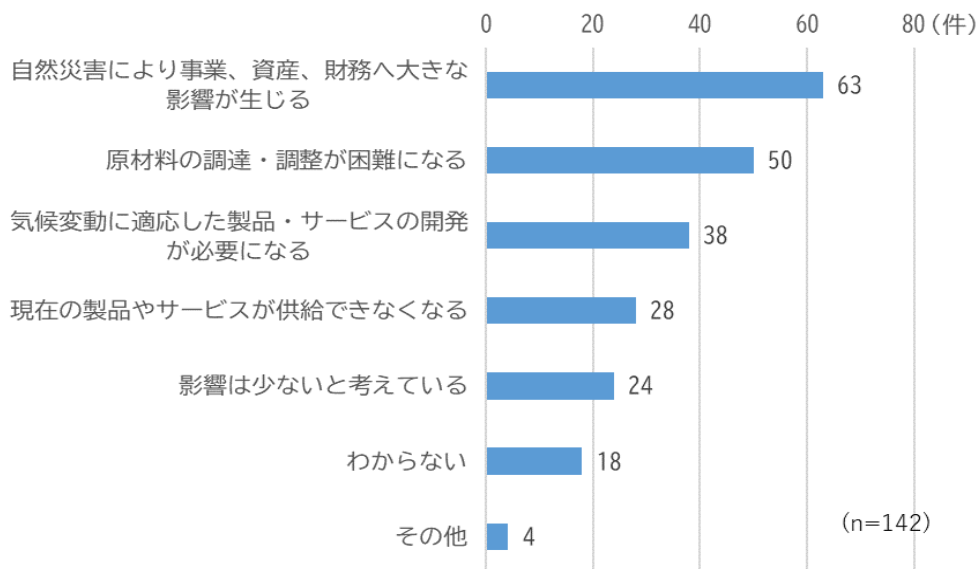
〔問 5〕 地球温暖化による気候変動の影響を感じるか？

- 「真夏日や猛暑日が増えている」が最も多く、回答者の約 92%が回答した。次いで「ゲリラ豪雨などの極端な気象現象や、災害（洪水、土砂災害）が増えている」（約 56%）、「熱中症などの健康被害が増えている」（約 38%）の順に多かった。



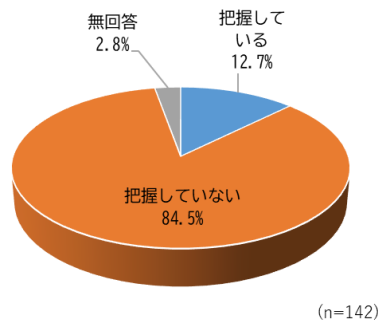
〔問 6〕 事業所が考える気候変動によるリスクは？

- 「自然災害により事業、資産、財務へ大きな影響が生じる」が最も多く、回答者の約 44%が回答した。次いで「原材料の調達・調整が困難になる」（約 35%）、「気候変動に適応した製品・サービスの開発が必要になる」（約 27%）の順に多かった



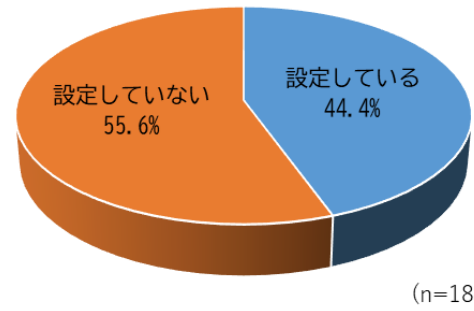
〔問 7〕 温室効果ガスの排出量を把握しているか？

- 最も多かった回答は「把握していない」で回答者の約 85%が回答した。「把握している」は回答者の約 13%であった



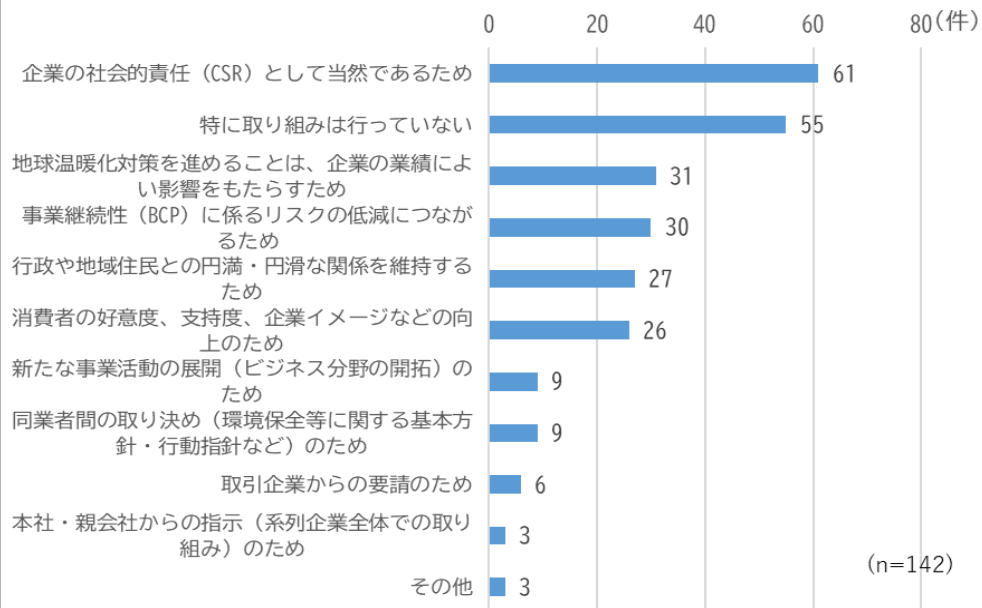
〔問 8〕 二酸化炭素排出量の削減目標を設定しているか？

- 「設定していない」が半数以上の 56%だった。



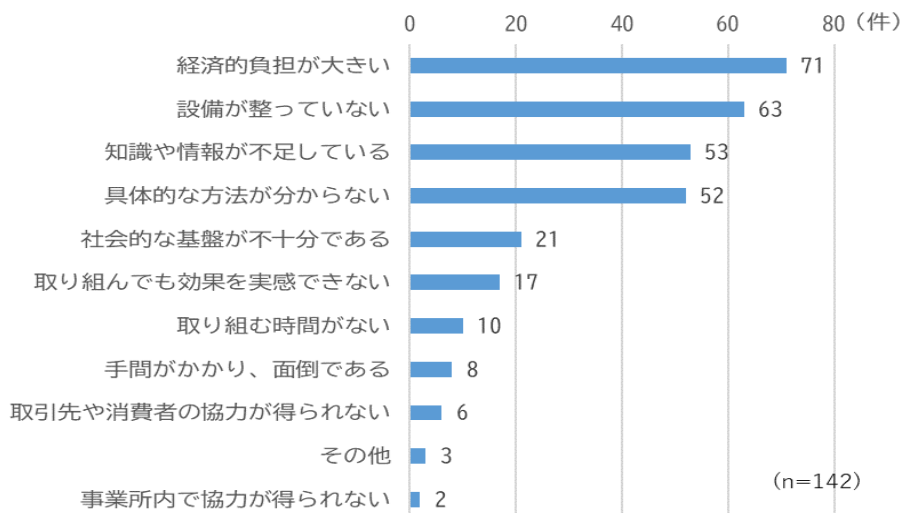
〔問 9〕 地球温暖化対策に取り組む目的

- 最も多かった回答は「企業の社会的責任（CSR）として当然であるため」で回答者の約 43%が回答した。次いで、「特に取り組みは行っていない」（約 39%）、「地球温暖化対策を進めることは、企業の業績によい影響をもたらすため」（約 22%）の順に多かった。



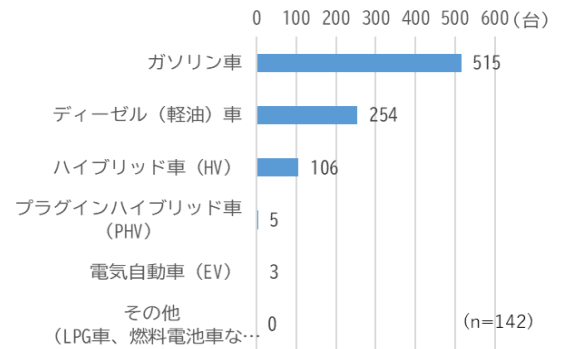
〔問 10〕 地球温暖化対策の取り組みを進めていく上での課題は何か

- 最も多かった回答は「経済的負担が大きい」で回答者の約 50%が回答した。次いで、「設備が整っていない」（約 44%）、「知識や情報が不足している」（約 37%）の順に多かった。



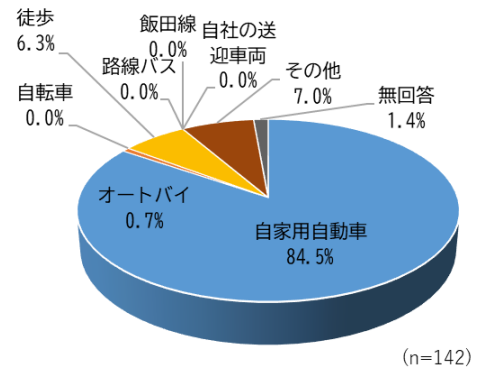
〔問 11〕 所有している自動車

- 「ガソリン車」が最も多く、回答者の約 86%が回答した。「ハイブリッド車」は回答者の約 32%が回答し、「電気自動車」は 3 台、約 2%が回答した。



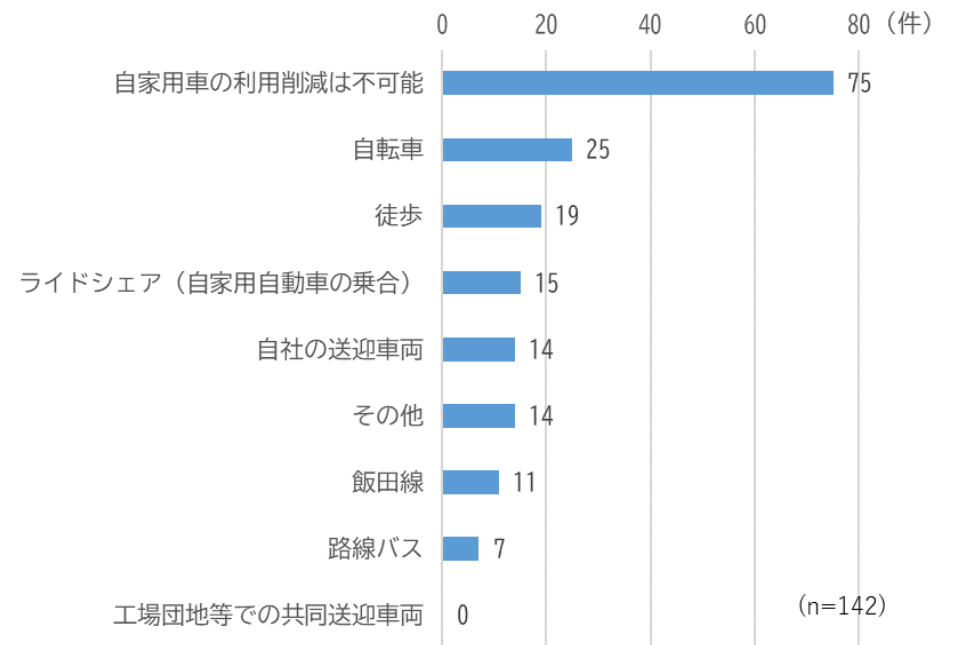
〔問 12〕 従業員の通勤手段

- 最も多かった回答は「自家用自動車」で約 85%、次いで「その他」約 7%、「徒歩」約 6%となった。



〔問 13〕 自家用車での通勤手段の代替え手段

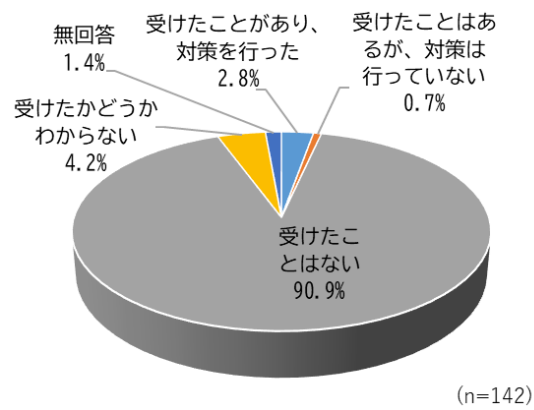
- 最も多かった回答は「自家用車の利用削減は不可能」で回答者の約 53%が回答した。次いで「自転車」（約 18%）、「徒歩」（約 13%）の順に多かった。



〔問 14〕 省エネ診断を受け、何らかの対策を行ったか？

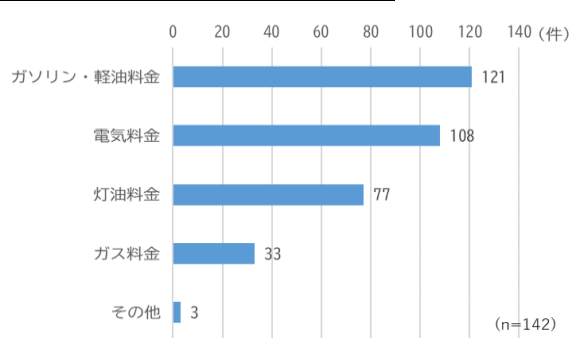
- 最も多かった回答は「受けたことはない」で回答者の約 91％が回答した。「受けたかどうかわからない」が約 4％であった。

- 問 15 で「受けたことがあり、対策を行った」と回答した方にどのような効果があったかを聞いたところ、「光熱水費の低減につながった」という回答が寄せられた。



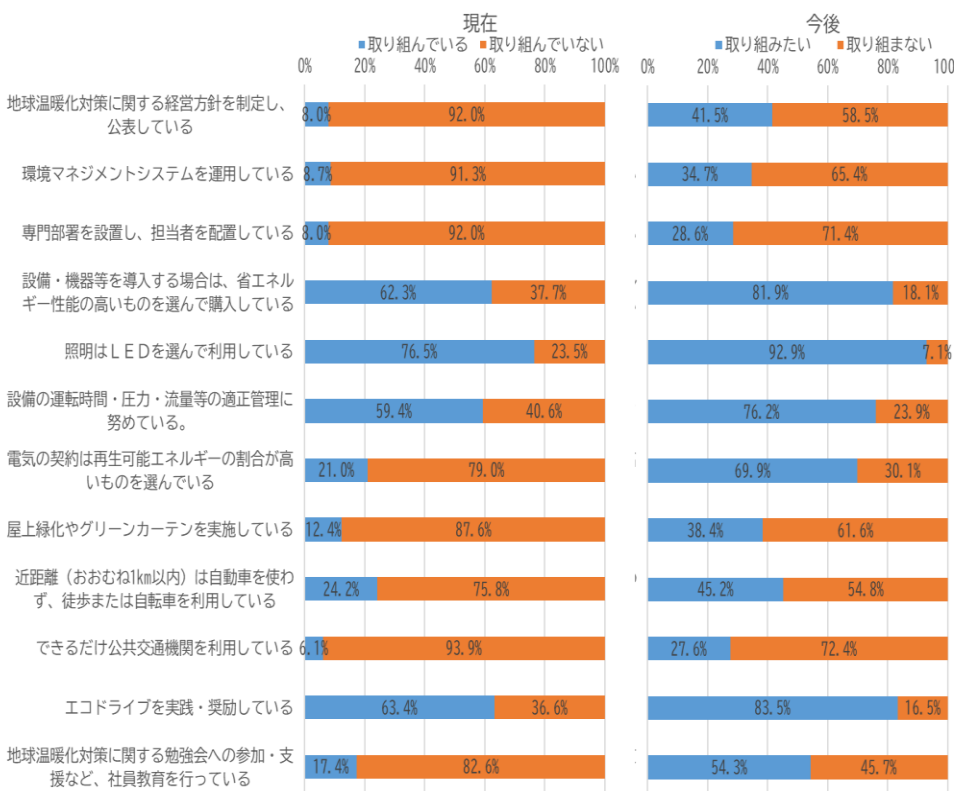
〔問 16〕 どのエネルギーで顕著なコスト増となっているか？

- 最も多かった回答は「ガソリン・軽油料金」約 85％、次いで「電気料金」約 76％、「灯油料金」約 54％の順に多かった。



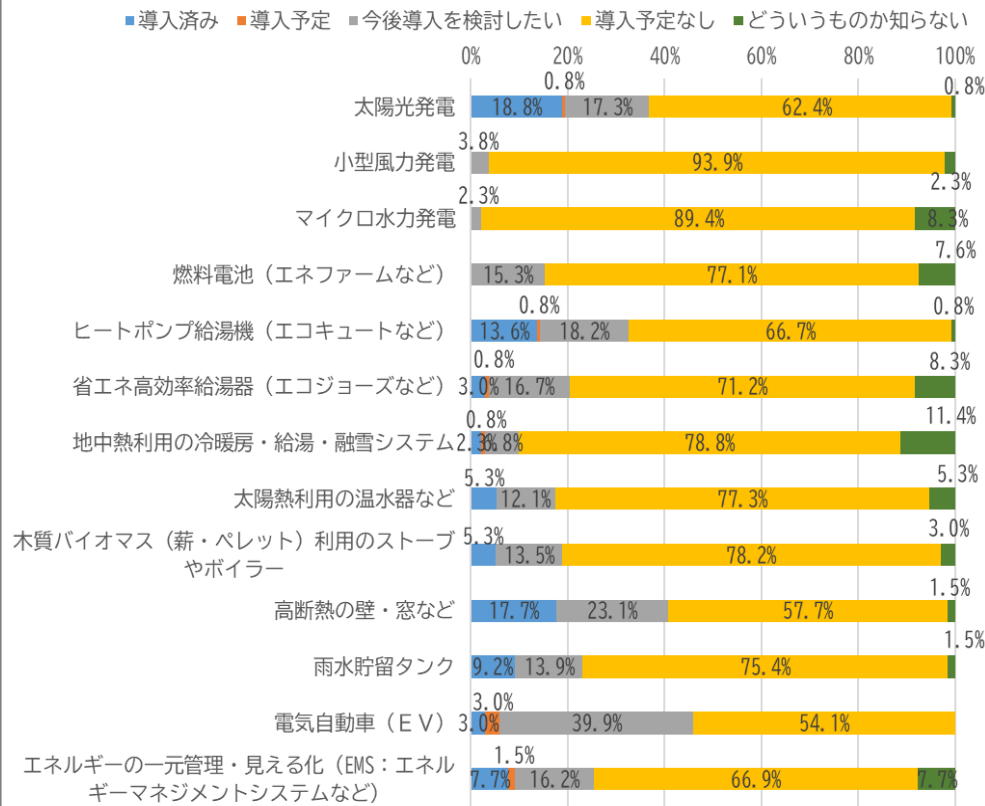
〔問 17〕 日常業務の中で実践している取り組みは？

- 現在「取り組んでいる」の割合が最も高かったのは「照明はLEDを選ぶ。」で、回答者の約 77％が回答した。次いで「エコドライブを実践・奨励。」(約 63％)、「設備・機器等の購入は省エネルギー性能の高いものを選んでる」(約 62％)の順であった。
- 今後「取り組みたい」の割合が最も高かったのは「照明はLEDを選ぶ。」で、回答者の約 93％が回答した。次いで「エコドライブを実践・奨励。」(約 84％)、「設備・機器等の購入は省エネルギー性能の高いものを選んでる」(約 82％)の順であった。



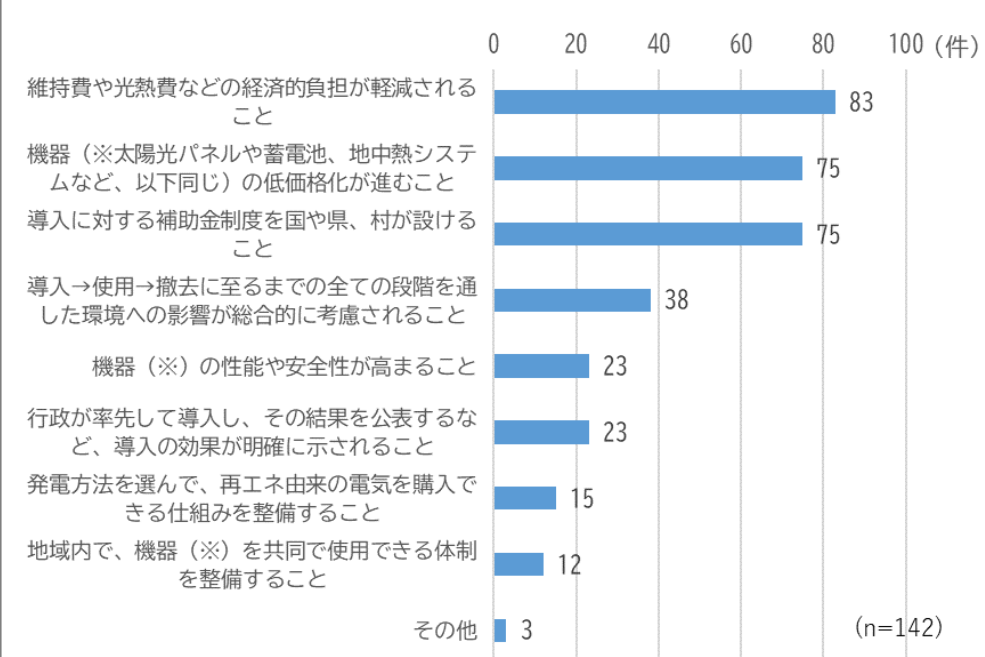
〔問 18〕 再生可能エネルギー設備の導入状況

- 「導入済み」が最も多かった回答は「太陽光発電」で回答者の約 19％が回答した。次いで、「高断熱の壁・窓など」(約 18％)、「ヒートポンプ給湯機（エコキュートなど）」(約 14％)の順に多かった



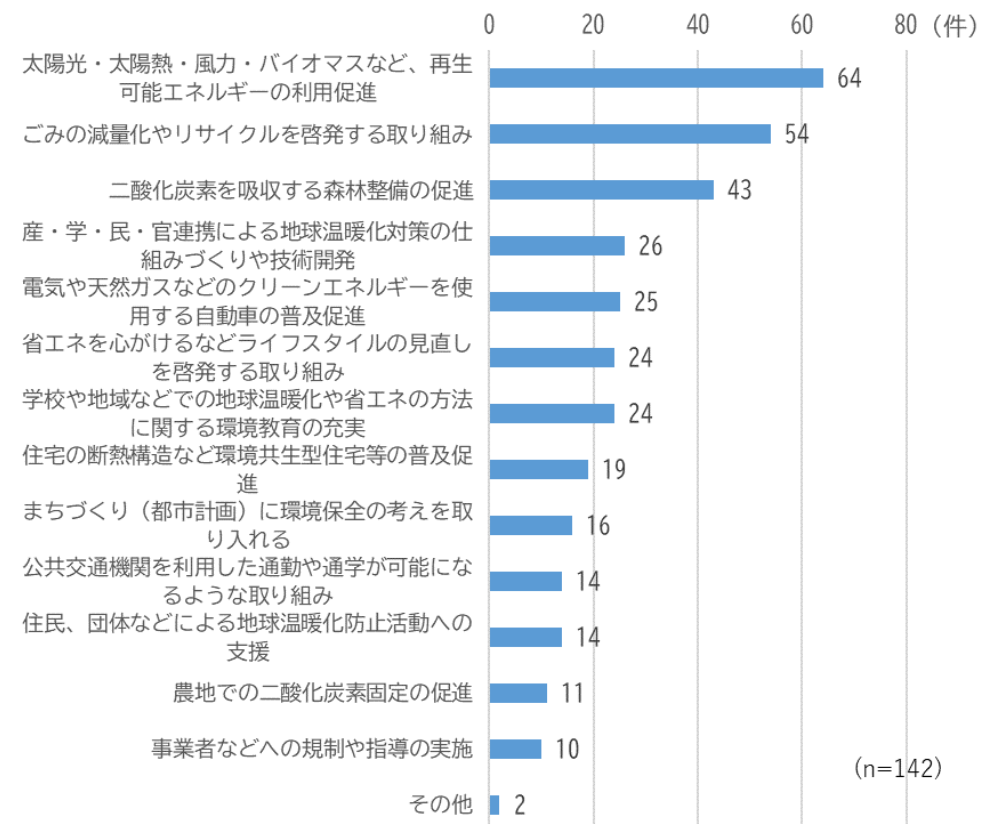
〔問 19〕 再生可能エネルギー設備の導入にあたって重要と思うこと

- 最も多かった回答は「維持費や光熱費などの経済的負担が軽減されること」で回答者の約 59％が回答した。次いで、「機器の低価格化が進むこと」及び「導入に対する補助金制度を国や県、村が設けること」(約 53％)の順に多く、金銭的な負担軽減に回答が集中した。



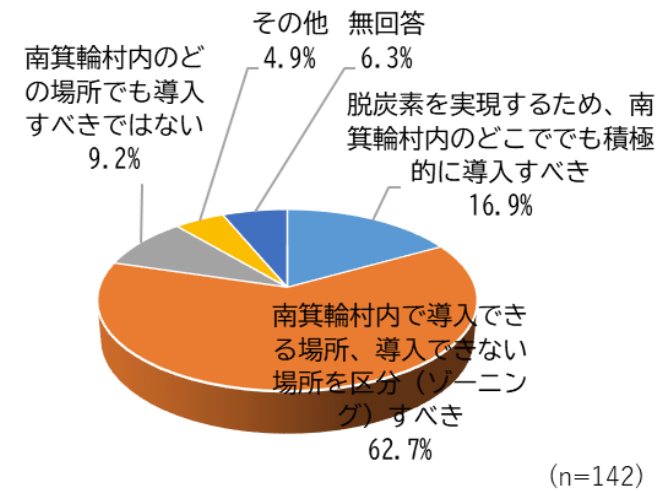
〔問 20〕 南箕輪村に期待する取り組みは

- 最も多かった回答は「太陽光・太陽熱・風力・バイオマスなど、再生可能エネルギーの利用促進」で回答者の約 45％が回答した。次いで、「ごみの減量化やリサイクルを啓発する取り組み」(約 38％)、「二酸化炭素を吸収する森林整備の促進」(約 30％)の順に多かった。



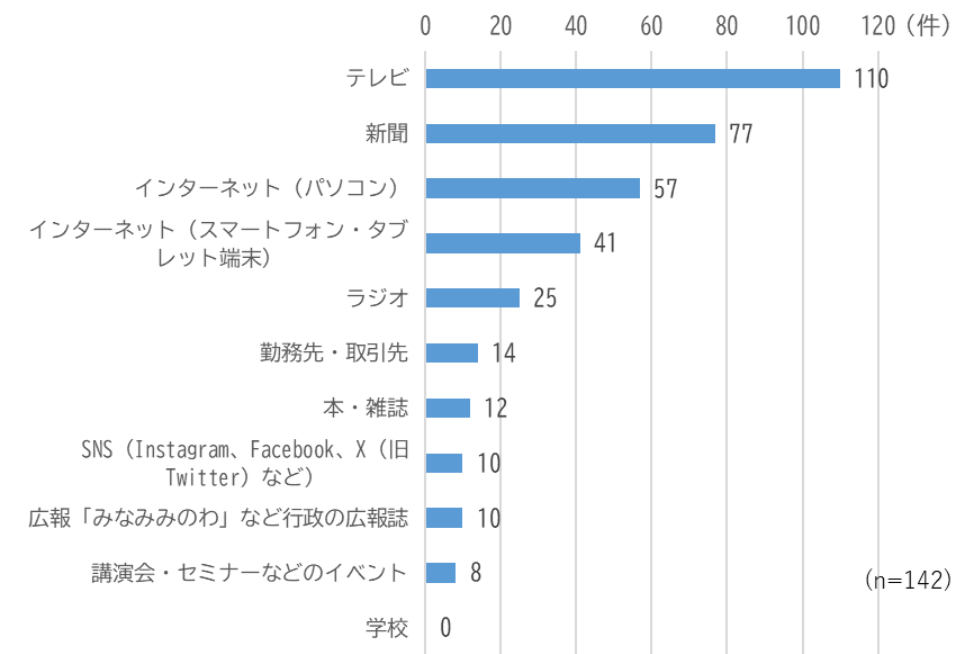
〔問 21〕 南箕輪村での大型の再エネ設備導入についてどう考えているか

- 最も多かった回答は「南箕輪村内で導入できる場所、導入できない場所を区分すべき」で回答者の約 63％が回答した。
- 「脱炭素を実現するため、南箕輪村内のどこでも積極的に導入すべき」は約 17％、「南箕輪村内のどの場所でも導入すべきではない」は約 9％であった。



【問 22】地球温暖化に関する情報はどこから入手しているか？

- 「テレビ」が最も多く、回答者の約 78%が回答した。次いで「新聞」（約 54%）、「インターネット」（約 40%）の順に多かった。



【問 23】自由意見

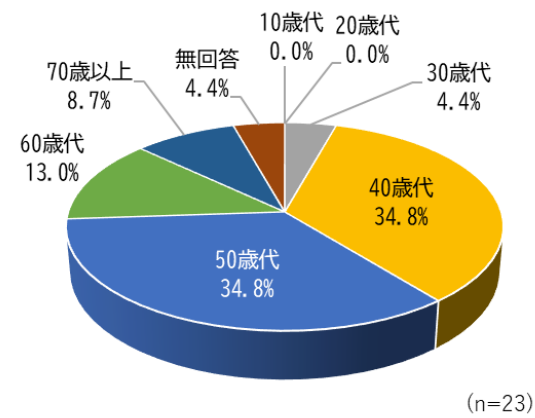
- 14 件の回答が寄せられた（別紙参照）。

（3）農家

【回答者属性】

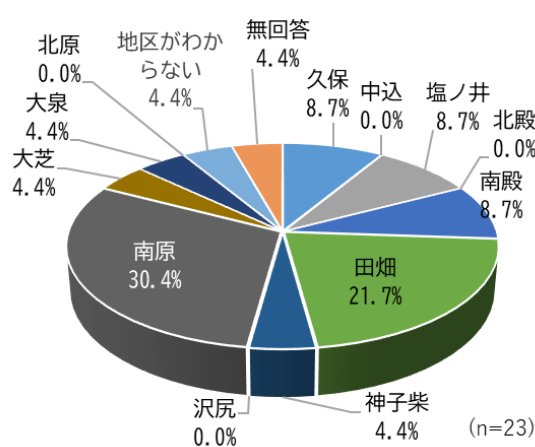
① 年代

- 40 歳代、50 歳代が最も多く、次いで、60 歳代の順に多かった。



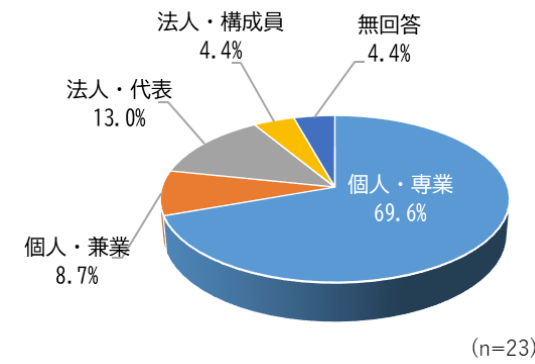
② 居住地区

- 南原（30.4%）が最も多く、次いで田畑の 21.7% でこの 2 地区で半数以上を占めた。



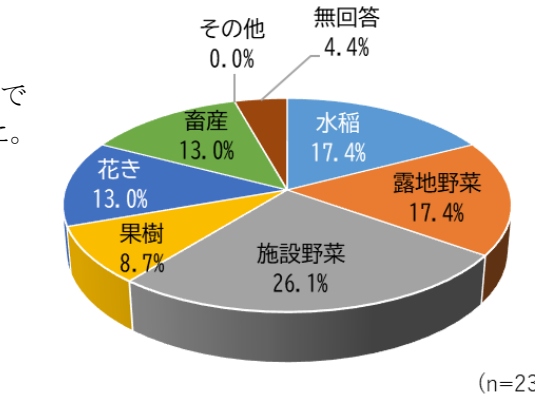
③ 経営種類

- 個人・専業が約 70%で最も多く次いで法人・代表、個人・兼業の順に多かった。



④ 主な作目

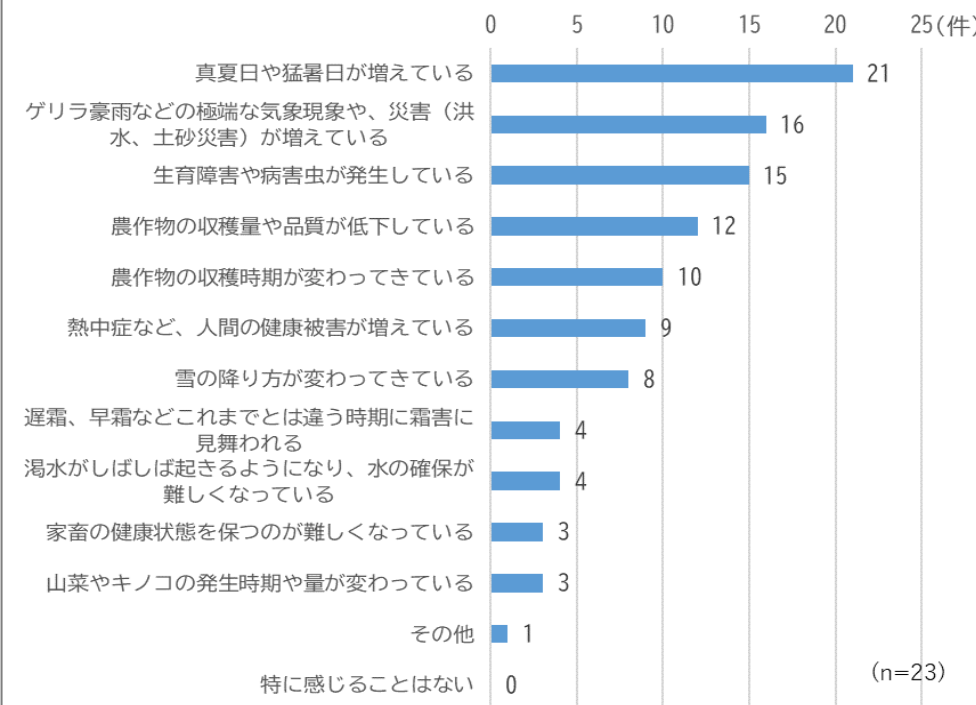
- 施設野菜が最も多く、次いで水稲、露地野菜が多かった。



【集計結果】

【問 5】地球温暖化による気候変動の影響を感じるか？

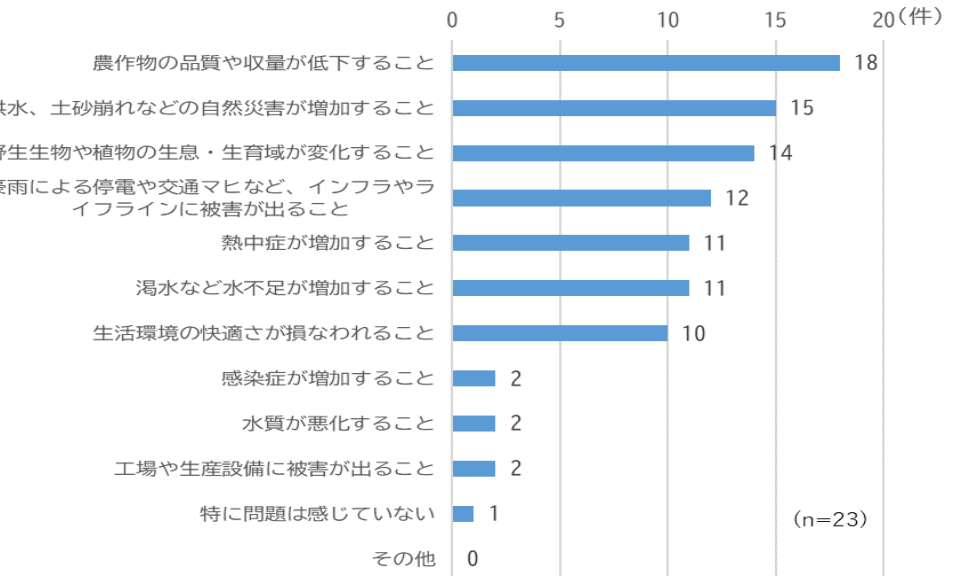
- 「真夏日や猛暑日が増えている」が最も多く、回答者の約 91%が回答した。次いで「ゲリラ豪雨などの極端な気象現象や、災害（洪水、土砂災害）が増えている」（約 70%）、「生育障害や病害虫が発生している」（約 65%）の順に多かった。



【問 6】地球温暖化によるどのような影響が脅威と感じるか？

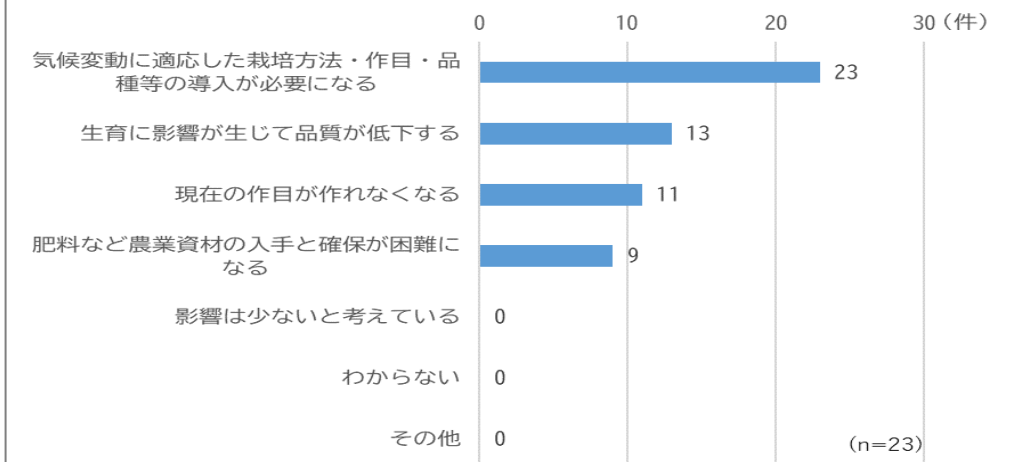
- 「農作物の品質や収量が低下すること」が最も多く、回答者の約 78%が回答した。次いで「洪水、土砂崩れなどの自然災害が増加すること」（約 65%）、「野生生物や植物の生息・生育域が変化すること」（約 61%）の順に多かった。

※右上の図参照



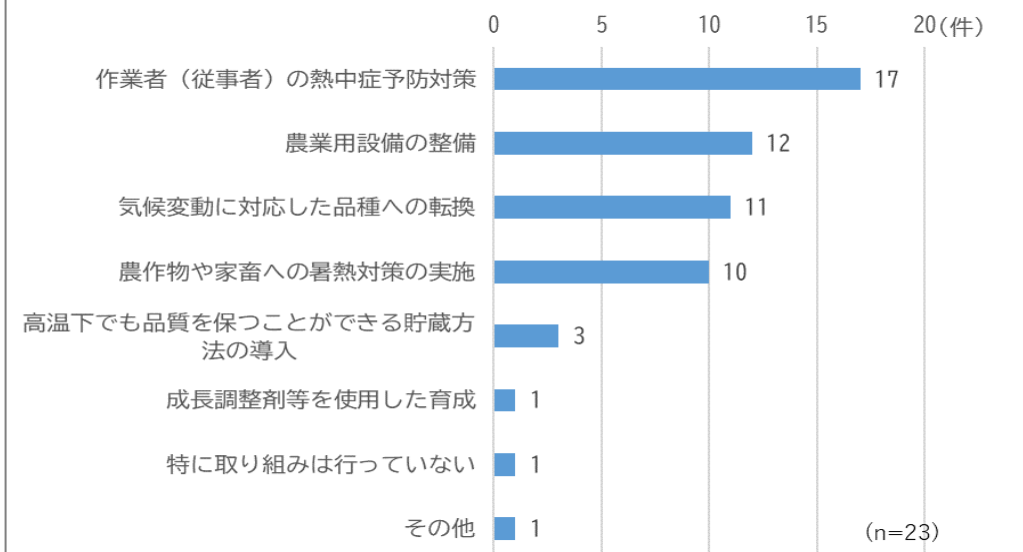
【問 7】農業を営む上で特に感じる気候変動のリスクは？

- 「気候変動に適応した栽培方法・作目・品種等の導入が必要になる」が最も多く、回答者の全員が回答した。次いで「生育に影響が生じて品質が低下する」（約 57%）、「現在の作目が作れなくなる」（約 48%）の順に多かった。



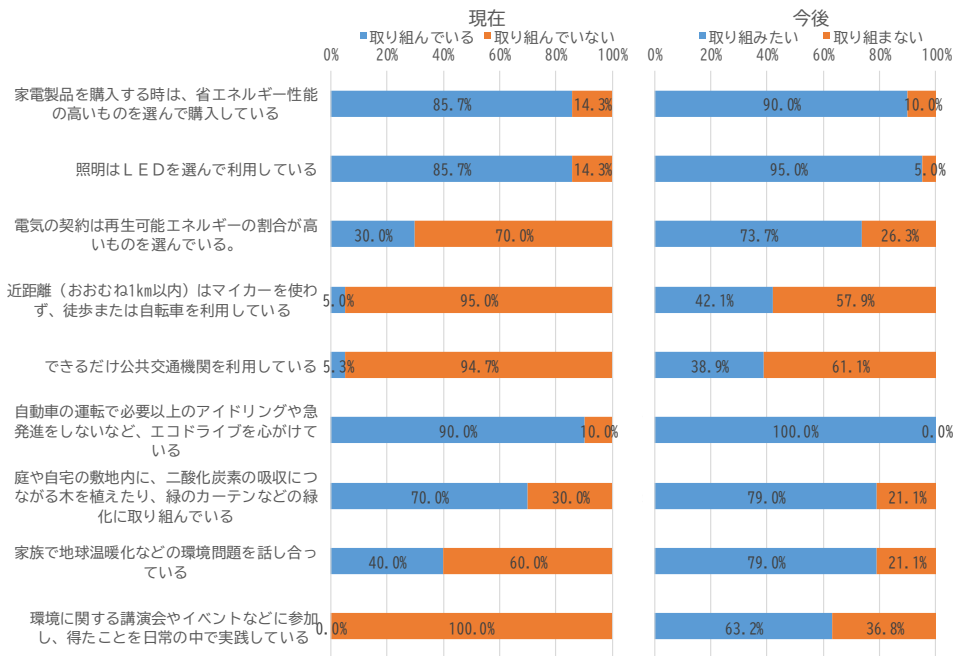
【問 8】気候や環境の変化への対策として取り組んでいること

- 「作業員（従事者）の熱中症予防対策」が最も多く、回答者の約 74%が回答した。次いで「農業用設備の整備」（約 52%）、「気候変動に対応した品種への転換」（約 48%）の順に多かった。



〔問 9〕 日常的に実践している取り組みは？

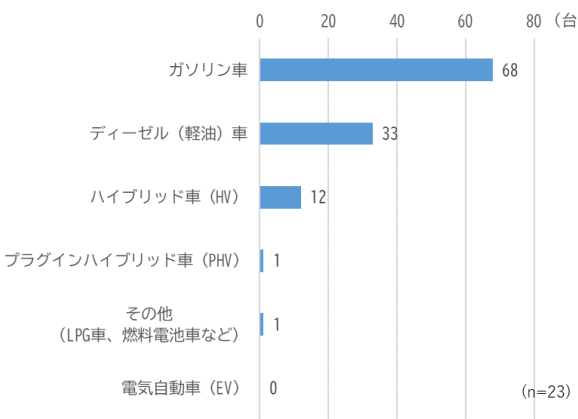
- 現在「取り組んでいる」の割合が最も高かったのは「自動車の運転で必要以上のアイドリングや急発進をしないなど、エコドライブを心がけている」で、回答者の約 90％が回答した。次いで「家電製品を購入する時は、省エネルギー性能の高いものを選んで購入している」（約 86％）、「照明はＬＥＤを選んで利用している」（約 86％）の順であった。
- 今後「取り組みたい」の割合が最も高かったのは「自動車の運転で必要以上のアイドリングや急発進をしないなど、エコドライブを心がけている」で、回答者の約 100％が回答した。次いで「照明はＬＥＤを選んで利用している」（約 95％）、「家電製品を購入する時は、省エネルギー性能の高いものを選んで購入している」（約 90％）の順であった。



-

〔問 10〕 所有している自動車

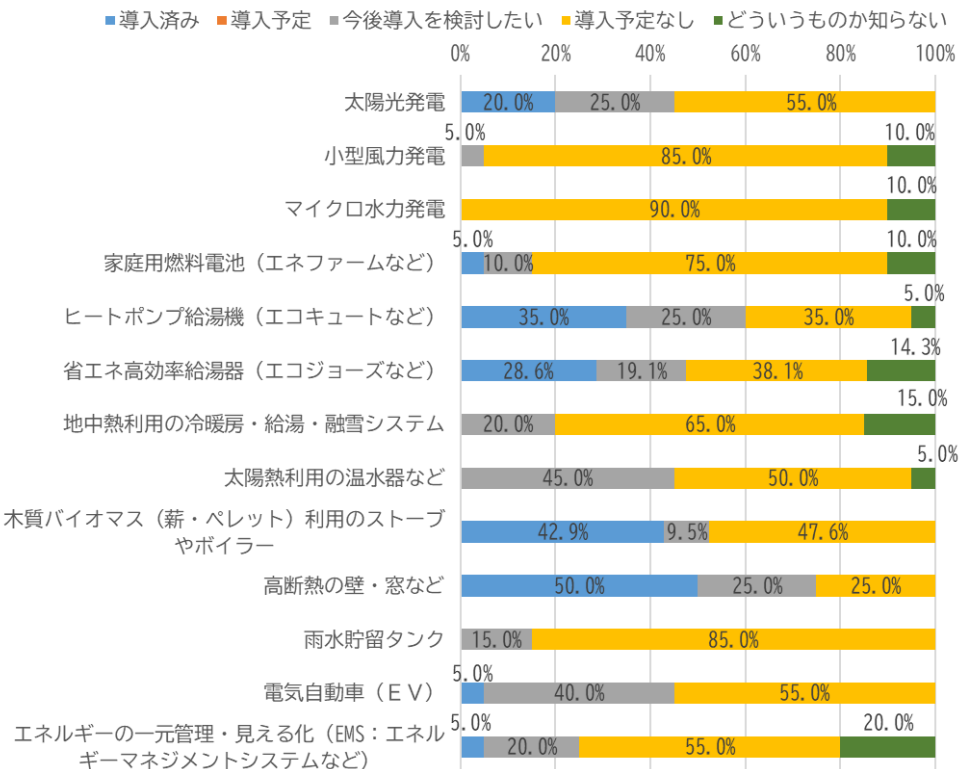
- 「ガソリン車」が最も多く、約 91％が回答し次いで「ディーゼル車」約 48％、「ハイブリッド車」約 35％だった。「電気自動車」は 0 だった。



〔問 11〕 再生可能エネルギー設備の導入状況

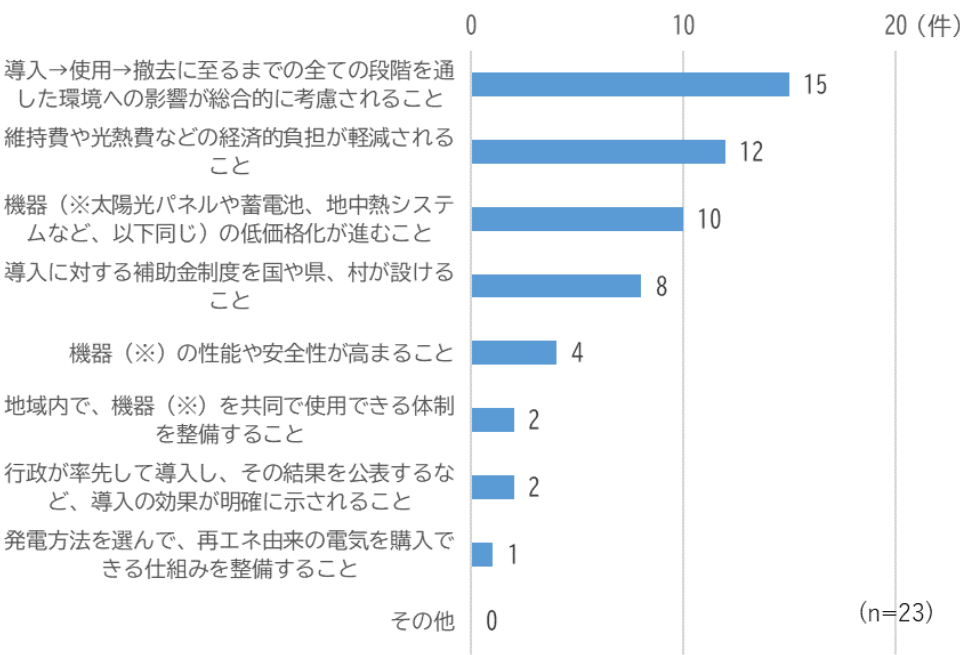
- 「導入済み」が最も多かった回答は「高断熱の壁・窓など」で回答者の約 50％が回答した。次いで、「木質バイオマス（薪・ペレット）利用のストーブやボイラー」（約 43％）、「ヒートポンプ給湯機（エコキュートなど）」（約 35％）の順に多かった。なお、「導入予定」の回答はなかった。

※右上の図参照



〔問 12〕 再生可能エネルギー設備の導入にあたって重要と思うこと

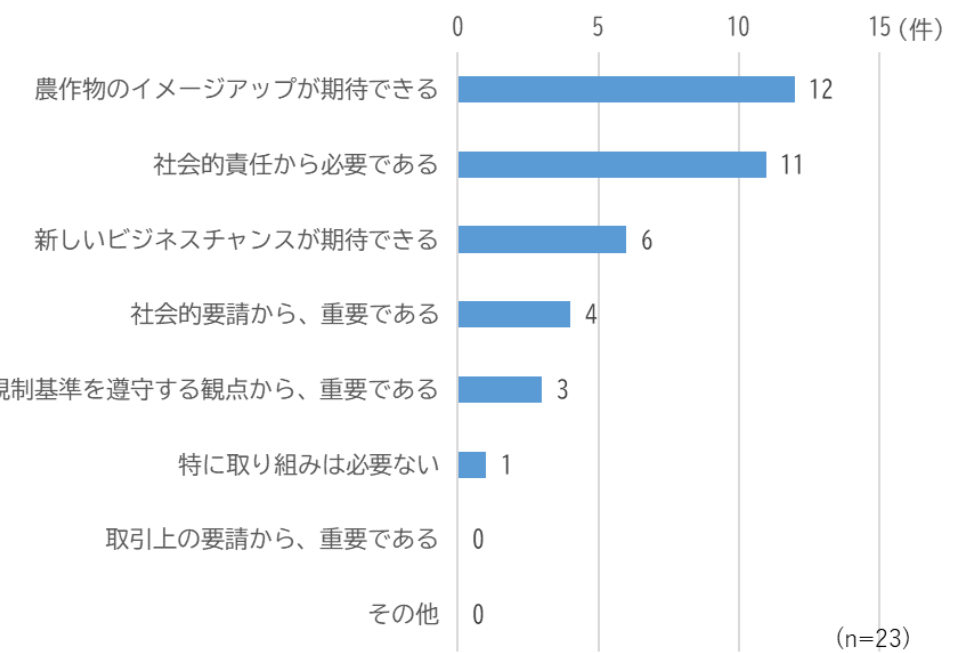
- 最も多かった回答は「導入→使用→撤去に至るまでの全ての段階を通した環境への影響が総合的に考慮されること」で回答者の約 65％が回答した。次いで、「維持費や光熱費などの経済的負担が軽減されること」（約 52％）、「機器の低価格化が進むこと」（約 44％）の順であった。



〔問 13〕 農業において環境保全や地球温暖化対策の取り組みを行う意味は？

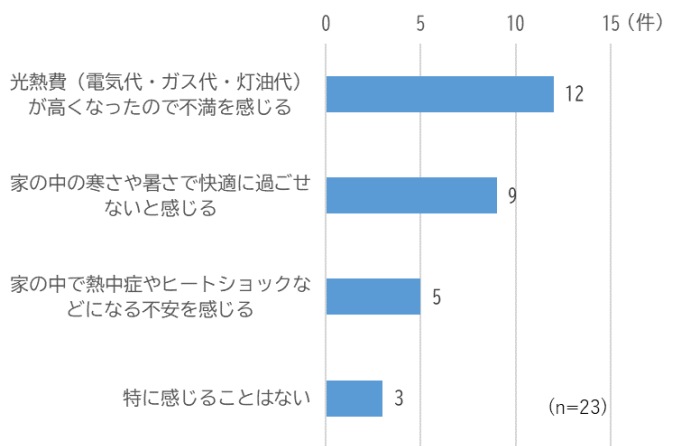
- 最も多かった回答は「農作物のイメージアップが期待できる」で回答者の約 52％が回答した。次いで、「社会的責任から必要である」（約 48％）、「新しいビジネスチャンスが期待できる」（約 26％）の順であった

※右上の図参照



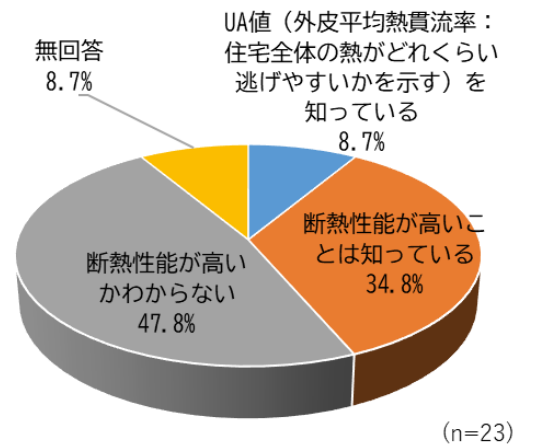
〔問 14〕 自宅の断熱性能について

- 最も多かった回答は「光熱費（電気代・ガス代・灯油代）が高くなったので不満を感じる」で回答者の約 52％が回答した。次いで「家の中の寒さや暑さで快適に過ごせないと感じる」（約 39％）、「家の中で熱中症やヒートショックなどになる不安を感じる」（約 22％）の順であった。



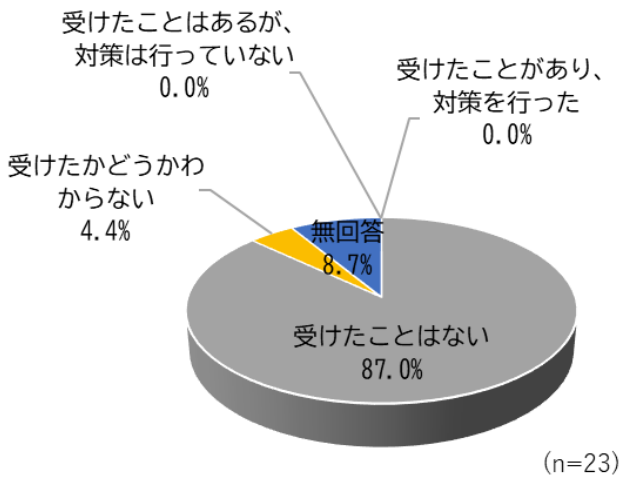
〔問 15〕 自宅の断熱性能がどのくらい知っているか

- 最も多かった回答は「断熱性能が高いかわからない」で回答者の約 48％が回答した。次いで「断熱性能が高いことは知っている」（約 35％）、「UA 値（外皮平均熱貫流率：住宅全体の熱がどれくらい逃げやすいかを表す）を知っている」（約 9％）の順であった。



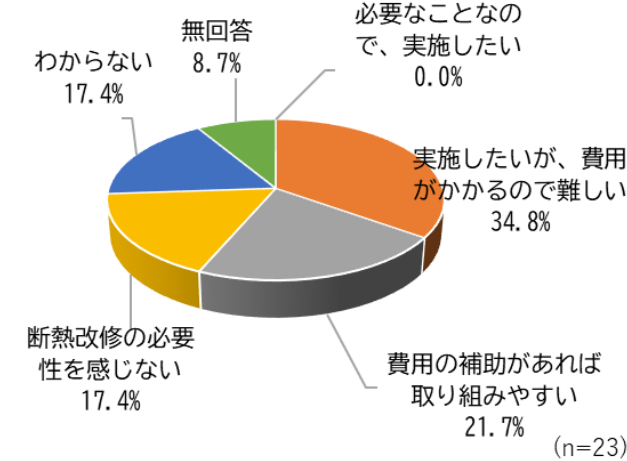
〔問 16〕 家庭の省エネ診断を受けたことがあるか

- 最も多かった回答は「受けたことはない」で回答者の約 87%が回答した。「受けたかどうかかわからない」は回答者の約 4%であった。



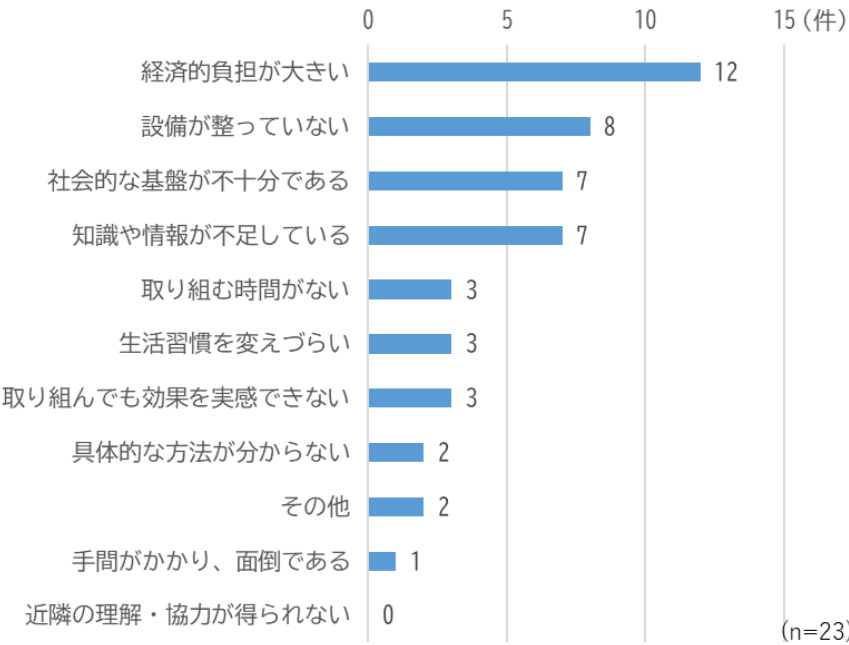
〔問 17〕 自宅の断熱改修についてどう考えているか

- 最も多かった回答は「実施したいが、費用がかかるので難しい」で回答者の約 35%が回答した。次いで「費用の補助があれば取り組みやすい」(約 22%)、「断熱改修の必要性を感じない」(約 17%)の順であった。



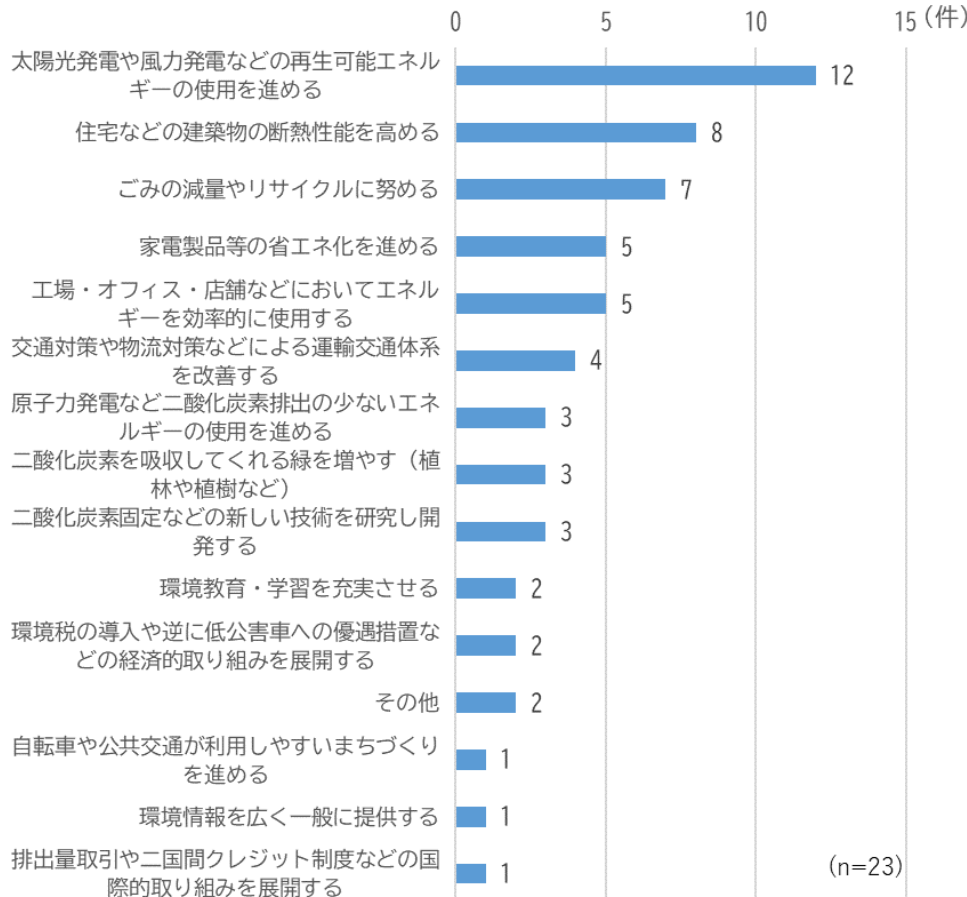
〔問 18〕 地球温暖化対策の取り組みを進める上での課題は何か

- 最も多かった回答は「経済的負担が大きい」で回答者の約 52%が回答した。次いで、「設備が整っていない」(約 35%)、「社会的な基盤が不十分である」及び「知識や情報が不足している」(約 30%) の順に多かった。



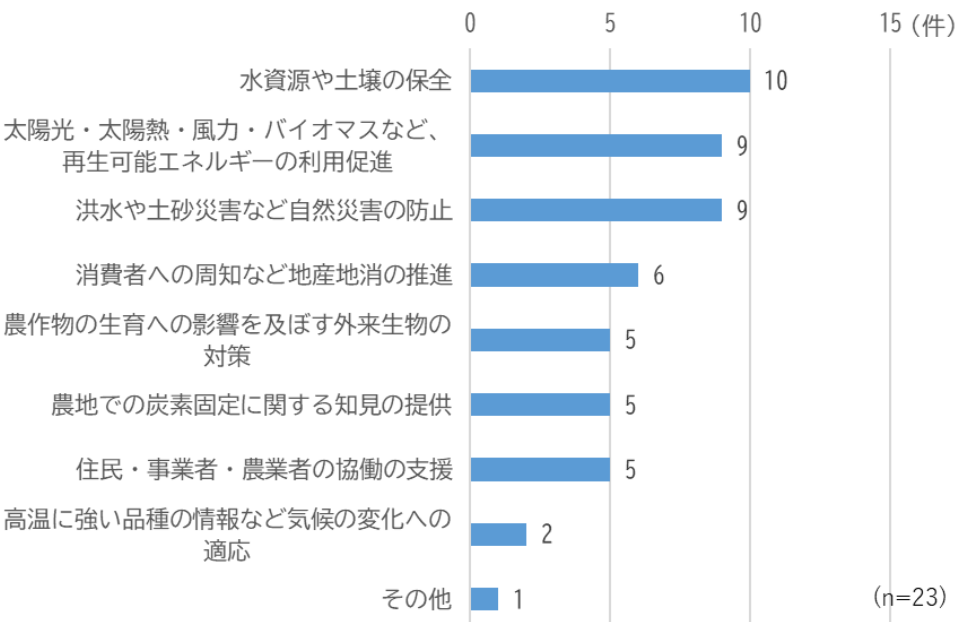
〔問 19〕 地球温暖化対策としてどのような取り組みが必要か

- 最も多かった回答は「太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの使用を進める」で回答者の約 52%が回答した。次いで、「住宅などの建築物の断熱性能を高める」(約 35%)、「ごみの減量やリサイクルに努める」(約 30%) の順に多かった



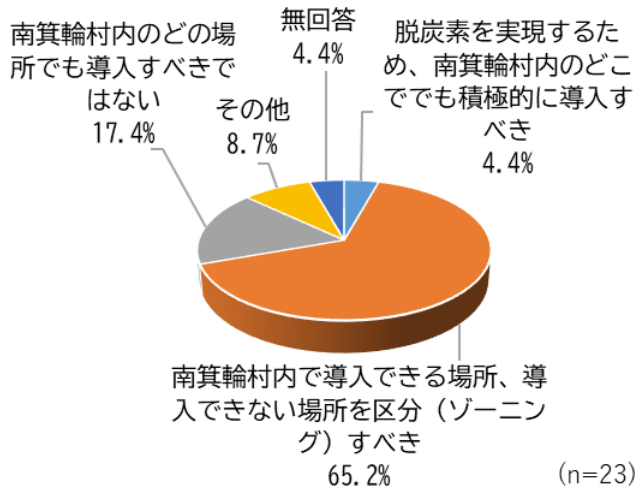
〔問 20〕 南箕輪村に期待する取り組みは？

- 最も多かった回答は「水資源や土壌の保全」で回答者の約 44%が回答した。次いで、「太陽光・太陽熱・風力・バイオマスなど、再生可能エネルギーの利用促進」及び「洪水や土砂災害など自然災害の防止」(約 39%) の順に多かった。



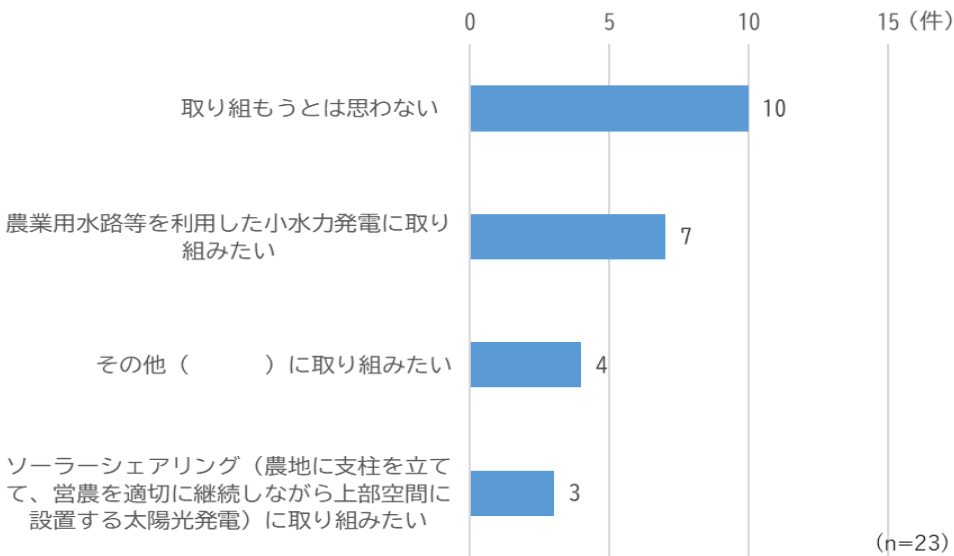
〔問 21〕 南箕輪村での大型の再エネ設備導入についてどう考えているか

- 最も多かった回答は「南箕輪村内で導入できる場所、導入できない場所を区分(ゾーニング)すべき」で回答者の約 65%が回答した。
- 「脱炭素を実現するため、南箕輪村内のどこでも積極的に導入すべき」は約 4%、「南箕輪村内のどの場所でも導入すべきではない」は約 17%であった。



〔問 22〕 農業における再生可能エネルギー設備の導入について

- 最も多かった回答は「取り組みうとは思わない」で回答者の約 44%が回答した。次いで「農業用水路等を利用した小水力発電に取り組みたい」(約 30%)、「その他()に取り組みたい」(約 17%)の順であった。
- その他の意見としては、「農業施設(格納庫、作業場)の屋根を利用した太陽光発電」や「設備ではなく広い農地を活かして光合成能の高い植物での緑化」等の意見が寄せられた。



〔問 23〕 自由意見

- 4 件の回答が寄せられた(別紙参照)。